

自己評価実施日	H30年 1月30日	包括情報	
行政評価実施日	H30年 2月20日	法人名	医療法人 王子総合病院
運営協議会開催日	H30年3月19日	責任者	渡邊 浩平
		連絡先	0144-36-3712

地域情報	
担当地区	旭町、一本松町、入船町、王子町、大町、表町、春日町、木場町、寿町、幸町、栄町、汐見町、清水町、新中野町、末広町、錦町、晴海町、船見町、本町、本幸町、緑町、港町、元中野町、若草町
高齢者人口	5,975 人(H29.10.1現在)
高齢化率	28.0 %(H29.10.1現在)
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の中心部で、交通の便や公共施設が近くにあるが、スーパーなど買い物場所が少ない。</li> <li>・低所得者の多い市営住宅と戸建てやマンションなどが混在する地域</li> <li>・新旧アパートも多く入居者の入れ替わりもあり、なかなか地域活動に結びつかない地域もある</li> <li>・医療機関が多く通院などの便利は良く、多種の施設もあるが、サービス付き高齢者住宅や共同住宅などは少ない。</li> </ul>

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 5 人
主任介護支援専門員 1 人	非常勤職員 人
社会福祉士 3 人	
その他 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 4.8年

総合評価	
自己評価	行政評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が兼務のため、すべての業務を行なえる反面、すべての事を行なわなければならない、介護予防支援(マネジメント)に多くの時間がとられ、業務過多となっている。</li> <li>・人員の入れ代わりが多く、関係性を作りながら地域に根付いた活動が行なえない。</li> </ul>	業務過多の中、地域との関係性構築にむけたアクションは評価できる。今後、職員が入れ替わった場合にも滞りなく業務運営ができるような取り組みが必要と思われる。

評価項目		
運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている		
(4)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている		
(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(8)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(9)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の全体共有が不十分</li> <li>・プライバシーの確保された面接環境ではない</li> </ul>	実行可能な事業計画の立案をして遂行する意識は評価できるが、職員全員で共有できることを期待する。必要に応じて、別室を準備しプライバシーは確保されている。
共通の支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
特 記 事 項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議などの開催により、地域の状況把握に努めている。</li> </ul>	今年度、各地域の特性を把握できたことは評価する。次年度は、それを基に、各地域課題で地域ケア会議を開催し、対応策について検討することを期待する。

評価項目		
総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断している		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別ケースの課題解決に向け、地域ケア会議、カンファレンスを問わず、積極的に取り組んでいる。</li> <li>・困難事例や緊急事例は、個人で判断せずに協議しながら複数対応できるよう体制を整備している。</li> </ul>	<p>個人のみで判断をせずに3職種で協議しながら対応していることと、介入ケース一覧表を作成し、各ケースの課題を明確にし、職員全員で共有できるよう工夫している点は評価できる。次年度は、家族介護支援にむけての取り組みの評価をし、支援につながっていくことを期待する。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
特記事項	自己評価	行政評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能団体や圏域ケアマネ会の活動に積極的に参画し、企画・運営などに携わっている。</li> <li>・圏域内外の相談にも応じながら、介護支援専門員の支援を行っている。</li> </ul>	<p>主に管理者が積極的に研修会等に参加し、また研修会を開催している点は評価できるが、包括内職員の経験年数の幅が広いこと各職員への周知方法に課題が残り、改善することを期待する。</p>

評価項目		
介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・介護保険のみならず、高齢者のニーズに応じた支援を行っている。	インフォーマル支援を個人の状態に合わせ、紹介することを期待する。
認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・支援が必要な認知症高齢者のアセスメントを行い、事業所内で協議をしながら取り組んでいるが、積極的な地域づくりにはいたっていない。 ・認知症サポーター養成講座などの目的を地域の実情に合わせたものを設定し、地域づくりも兼ねて行うよう努めている。	多忙業務のため理想とする地域づくりには至っていないという点は理解している。今後は地域のニーズに則した地域づくりを期待する。
在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	・医療機関や資源情報を事業所内で共有し、スムーズな支援ができるよう努めている。 ・連携先の状況も勘案しながら連携をするよう心がけ、良好な関係が図れるよう努めている。	良好な関係づくりを心がけていることと、相談があった際には、速やかに対応していることは評価できる。

評価項目		
生活支援体制整備		
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている		
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている		
	自己評価	行政評価
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に地域ケア会議やカンファレンスを行い、地域や関係機関と情報を共有している。</li> <li>お互いの役割を明確にすることにより、より専門的な関わりができるよう努めている。</li> </ul>	生活支援体制整備への取り組みは評価できる。今後、包括のみならず生活支援コーディネーターと協働した地域づくりを期待する。
一般介護予防事業		
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している		
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている		
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している		
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている		
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している		
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している		
	自己評価	行政評価
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険等制度に結びつかない場合でも介護予防教室につなげるようアプローチしている。</li> <li>認知症や障がいなどがあっても参加者と協力しながら教室に通えるよう取り組んでいる。</li> </ul>	介護予防教室では、対象者の身体機能に個人差はあるが、必要に応じて個別に対応し丁寧な関わりで運営している。今後も継続した取り組みを期待する。

評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

<p>事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容</p>
<p>・今年度は、地域ケア会議、カンファレンスなどの開催を積極的に行い、個別課題、地域課題の共有やその解決に向け、地域と共同できる土台作りに取り組んだ。</p>
<p>今年度事業の達成状況及び成果</p>
<p>・受託事業は、ほぼ計画通り遂行できたことで、地域ケア会議や認知症初期集中支援、ケアマネの支援などを通して、目的を明確化し言語化することにより、より良い協力体制の構築に向けた土台作りが出来上がってきた。</p>
<p>達成できた又は達成できなかった原因</p>
<p>・できるだけ全員参加するようにし、成功や失敗を経験することにより、次につなげる意識が職員全体に浸透してきた。  ・介護保険以外のケースの進捗状況や対応内容を確認、共有することで、担当者が不在時の対応などもスムーズに行え、認知症初期集中支援や地域ケア会議の対象者選定、目的が事業所内で共有できた。</p>
<p>課題及び今後の取組み</p>
<p>・個別ケース対応は行なえたが、計画的な地域づくりや社会資源の開発に向けたアウトリーチができていない。  ・コミュニティソーシャルワークを基盤とした的確な地域診断が行われていないため、どこにどのようにアプローチしていくかが明確になっていない。  以上のことなどから、繰り返し地域ケア会議などを行うことにより、地域の特性に合わせたより具体的な取組みを計画化していく必要を感じている。</p>